日本國
清國隣交貿易和約章程 和文

1060

A14
677
I

外務省

天正十一年四月大隈侯爵邸寄贈

茲二

大日本國
天皇
大清國
皇帝固ク友好ヲ結ヒ以テ隣誼ヲ敦クシ條
約ヲ訂立(トノタテ)メ両國慶(サイハヒ)ヲ蒙ンフヲ切(子ニゴロ)ニ冀フ是
ニ於テ
大日本國

天皇特ニ
大清國
皇帝特ニ
各奉ハル所ノ全權便宜行事之　諭旨ヲ公
同ニ較閲セシニ俱善當ニ屬セリ此ヲ以テ
會議シ隣交貿易和約章程ヲ酌定シ所有ノ
各款ヲ左ニ開列ス

派シ
ツカハ

第一款

一以後
大日本國ト
大清國ト永遠和好メ友誼ヲ敦ク篤ウシ兩
國ノ商民互ニ諸港ヘ僑居メ皆身家ヲ保護
スルヿヲ得ヘシ

第二款

一
大日本國

外務省

天皇全權大負ヲ派出シ
大清國京師ニ進メントト欲ルモ亦許可セ不ルヿ無シ
大日本國
天皇派出スル所ノ全權大員ハ其身本國ニ代テ權ヲ秉ル可レハ
大清國
皇帝ニ謁見スル時國體ニ礙ルノ禮有ル片ハ決テ是ヲ行ナハ不ルナリ
大清國
皇帝秉權大負ヲ派出シ
大日本國京師ニ至シメント欲スニモ事同ク一律ナリ是ヲ以テ日本國ヨリ京師ヘ派シ至シム所ノ秉權大負ハ本國ノ諭出ヲ奉有メ家眷隨員人等ヲ帶ヒ京師ニ在テ長ク居住シ或ハ時ニ隨ヒ往來ス可シ

外務省

第三款

大日本
大清國派出スル所ノ秉權大員居住ノ處ニ於テハ都テ情理ヲ推シ計リテ恩施ヲ得セシムヘシ所有屬身ノ家財公宅並ニ各處ヨリ來往スル公文書狀等ハ何レモ猥リニ開キ改ムルヿヲ得ズ凡ソ飛脚通辯人召使等ヲ雇ヒ抱ヘントト欲ルモ皆勝手ニ為ヘク右ニ付テノ費用ハ両國ヒ自ラ遣ヒ拂フヘシ

京師ニ在リ地所或ハ房屋ヲ借受ケ欽差大員ノ公館ト為スヿナドハ両國ノ官員モ亦互ニ力ヲ添ヘ世話スヘク人夫ナドヲ雇ヒ使フニモ亦其意ニ任セ聊カ押止ムルヿ無シ

第四款

一今般議定免許ノ通商各口ヘハ日本國ヨリ勝手ニ領事等ノ官ヲ差出シ置キ本國商

民ニ關係セシ事件ヲ辨理セシムヘシ清國ノ官員ハ其領事等ノ官ニ於テ何レモ叮嚀ニ相待フ諸國ノ領事官ヲ相待フ内ノ最モ優ナル者ト同様ニスヘシ凡テ別國ヘ施サレタル優恩之處ハ日本國ノ官員モ同律ニ受ルヘシ領事ナドノ官其港ニ居住セズシテ日本國ノ商民直チニ運上所ヘ赴キ届ケ出ルヿ有ラバ都合克ク取計ヒ遣ハシ本國ノ商民ヘ此條約ノ利益ヲ得セ使ム可シ

第五款

凡テ

大日本國ノ秉權大員ヨリ以下領事官ニ至ルマテ公文モテ清國ノ大憲及ヒ地方官ニ照會スルニハ何レモ日本字ニ漢文字ヲ交エテ認ム惟當分ハ漢譯ノ文ヲ添テ差シ出スヘシ若シ差出セシ文中ニ旨義不合ノ處

有ラハ仍日本字ヲ交エタル本文ヲ以テ正
ト為ス清國ノ官員ヨリ公文モテ照會スル
ニモ亦漢文ヲ以テ正ト為シ繙譯ノ文ヲ以
テ正ト為スヿヲ得ザル也今般議定セシ和
約章程ヲモ漢文ト日本文ト合セ認メ何レ
モ意味違ヒ無キ様ニ兩國公同較對セリ若
シ以後清國ト日本國ト辯論スヘキ義有ル
ヿハ意味取リ違ヒヲ免ン為メ即チ日本文

ヲ以テ證據ト為シ以テ公允ヲ昭ニス

廣州 潮州 廈門 福州 甯波 上海 芝罘
天津 牛莊 鎮江 九江 漢江 瓊州 台灣
淡水等ノ港ヲ
大日本國ノ民人並ニ眷屬共ヘ許シ誰ニテ
モ居住来往貿易工作スルニ平安ニメ礙リ
無ク船貨時ニ隨ヒ往来シ平常間斷無ルヘ
シ房屋ヲ借リ或ハ買ヒ地所ヲ借テ神廟病

院墓所ヲ造ル等ノ事ニ至ル迄皆勝手ニ為
スヘシ

第七款

一日本國ノ商船ハ此條約内ニ通商ヲ准ル
シタル港ヲ除テ其餘ノ港ハ一切罷リ越
エ貿易スルヿヲ准ルサヾ如シ別口ニ到
リ或ハ沿海各處ノ地方ニ在テ私ニ買賣
ヲ為サハ即チ船貨ヒ一同取上ケ没収ス
ヘシ

第八款

一日本國ノ民人ハ誰ニテモ通商諸港ノ近
處ニ往テ遊玩スルヿヲ准ルセリ其地百
里日數三四五日以内ニ在ラハ照ヲ願ヒ
請クルニ及ハス若シ内地ヘ進ミ往ント
欲セハ必ス領事官及ヒ地方官由リ調印
セシ切手ヲ相渡シ置キ途中ニテ改ムヘ

キ處有ラハ其時々呈出メ改ヲ請クヘシ
萬一其切手紛失メ呈出スヘキ物無之ハ
清國ノ官員ニテ右切手ヲ紛失日本人
ヲ暫ク滞留致サセ別ニ切手ヲ願ヒ請ク
ルヿヲ准ルスベシ又ハ其人ヲ護送メ最
寄開港場ノ領事官ニ引渡シ受取ラシム
モ亦可ナリ決メ打擲ヲ加ヘ或ハ他人是
ヲ傷害スルヲ見捨ニスヘカラス

第九款

一清國中何地之人ヲ論セズ買辨通事書記
工匠水手工人等ハ日本國ノ民人ヨリ勝
手ニ雇ヒ用ルヿヲ准ルシ其賃錢謝礼ハ
相對ノ約定ニ任スヘシ若シ清民ノ小船
ヲ雇ヒ入レ人ヲ渡シ貨ヲ運ハント欲ル
モ亦官ヨリ禁阻スルヿ無シ清國ノ士民
等ヲ延請メ漢字ノ文並ニ諸方ノ土語ヲ

學習シ或ハ日本語ヲ清國内地之人ニ教
ルモ亦可ナリ日本國ノ書籍並ニ清國種
々ノ書籍ハ相互ニ賣與ヘ買取テモ宜シ

第十款

一日本國ノ船護通商ノ諸港ヘ駛入ルトキハ
勝手ニ引水之人ヲ催ヒ乘セテ入港スヘ
シ其船貿易納税全ク相濟ミ歸帆ノ節モ
亦引水之人ヲ催ヒ入レ何時モ之ヲ帶ニ
出港スルヿヲ准ルス

第十一款

一凡テ通商ヲ准ルセシ諸港ハ日本國ノ商
船入港スル毎トニ監督官ヨリ慥ナル役
人一二名ヲ差出シ看守ラセ密商税等ヲ
防ク其役人ハ手催ヒノ船ニ乘リ居ル所
又ハ商船ニ在ル所何レモ勝手ニ為ヘシ
右ニ付入用ノ給料賄ヒ等ノ費ハ皆清國

ノ運上役所ヨリ給ヘ渡シタル故船主或
ハ引請ノ船高ヘ向テ銀錢ヲ求メ取ルヿ
ヲ求メ取ルヿヲ得ス若シ例ニ違フヿ有
ラハ即チ取込タル多少ニ寄テ例ヲ照シ
罪ヲ極メ其高ヲ取上ケテ還スヘシ

第十二款

一日本國ノ船隻入港セハ一日立テ後ニ聊
カ阻滞無ク其船主或ハ貨主或ハ引請船
商ヨリ即チ船牌貨物ノ清單ヲ以テ領事
官ニ差シ出セハ領事官ハ船牌貨單ヲ受
取テ後一日ノ内ニ於テ即チ船名人名及
ヒ積ミ前ノ噸數貨色ヲ詳細ニ書出シ運
上役所ニ提合ヒ其改ヲ請クヘシ若シ船
主怠慢メ其船入港ノ後二日ノ内ニ於テ
船牌等ノ書類ヲ領事官ニ呈出セズンハ
一日ヲ逾ル毎ニ銀五十圓ヲ罰ス可シ但々

過料之高二百圓之外ニ適ルヲ得ス監督
官ハ詳細ナル様合ノ文ヲ受取ラバ即チ
其船ニ艙ヲ明クルヿヲ准ルスベシ若シ
船主未タ免許状ヲ領セズ自儘ニ開艙ノ
貨ヲ卸サバ銀五百圓ヲ罰シ其卸ロセシ
貨物ヲ不残取上ケ没収スヿ可シ

第十三款

一日本國ノ商人貨ヲ揚ケ貨ヲ積ント欲ス

ニハ總テ先ツ監督官ノ免許状ヲ領シタ
ラバ揚ケ積ミ貨ヲ准スナリ如シ違ハヽ
貨物ヲ取上ケ没収スヘシ

第十四款

一日本國ノ商民ハ通商ノ諸港ニ在テ凡ソ
入口出口ノ貨物有ラハ何レモ後附ノ税
則ヲ照シ定税ヲ上納スル外ハ更ニ別拆
ノ規費ヲ加増スルヲ得ズ和約章程ノ後

ニ附タル通商税則ハ必ス和約章程ト同
様ニ心得両國屹ト信守スヘシ

第十五款

一税則ニ書載セタル價何程ヲ照シ税何程
ヲ取ルトノ義ハ萬一商人ト運上役所ノ
人ト其價ヲ平定スルヿ能ハサルトキハ双
方ヨリ銘々ニ商客二三人ヲ呼ヒ来リテ
其貨物ヲ明カニ改メサセ其商客買ントト
願フ價ノ最モ高キ者ヲ取テ積リ直段ヽ
立テ是ヲ照テ税ヲ抽ヘシ

第十六款

一凡ソ税銀ヲ納ムニハ正味ノ貨ヲ以テ本
高ト為レバ其貨物ノ荷包上皮ヲ除キ去
ルヘシ若シ日本國ノ商人ト運上役所ノ
役人ト諸貨物包皮ノ輕重ヲ定メ得サル
トキハ其爭執セシ貨物ヲ上皮共ニ秤ニ掛

外務省

ケ先ツ何程ト皆數ヲ定メ置キ次ニ又包
皮ヲ取除テ是ヲ秤ニ掛ケ其量目ヲ差引
キ平均メ正味ノ高ヲ推シ定ム

第十七款

一貨物ヲ査驗(シラベアラタム)スル時ニ當リテ如シ意見合(ミコミ)
ハザル一有ラハ日本國ノ商人ハ領事役
所ニ赴テ申立ヘシ其領事官ヨリ右ノ情
実ヲ運上役所ニ掛合ヒ中ニ立テ盡力ノ

取扱ヒ遣ハスヘシ惟(シカシ)一日ノ内ニ申出ヽ
シ否(シカセ)ザレハ辨理ヲ爲サス議論未定之先
ニ運上役所ニテ右互ニ爭フタルマヽノ
税高ヲ直サマ賬面ニ寫スヿヲ得ズ是ハ
後ニ勘定立テ難キヿモ有ルベキ故也

第十八款

一入口ノ貨物ニ損壞セシ者有テハ右損壞
ノ多少ヲ核(シラベ)シ其價ニ應ノ税ヲ減シ公平

ニ辨理スヘシ若シ互ニ理論ノ價ヲ定ム
ヿ能ハズンハ第十五款ニ載セタル價ヲ
照シテ稅ヲ抽ノ例ニ引合ハセテ辨理ス

第十九款

一入口ノ稅ハ貨ヲ卸ス時ニ上納シ出口ノ
稅ハ貨ヲ下ス時ニ上納ス一切ノ稅鈔ヲ
全ク上納濟マバ監督官ヨリ即チ皆濟ノ
書付ヲ相渡スベシ其書付ヲ領事官ニ呈

出メ改メ濟マバ即チ船牌ヲ渡シ還シ准
ルシテ出港セシム

第二十款

一凡ソ日本國ノ貨船入港ノ曾テ艙ヲ開カ
ズ他ヘ往ント欲ル者二日ノ内ヲ限リ出
港セバ鈔餉ヲ上納スルニ不及並ニ差出
スベキ雜費無シ若シ二日之限ヲ逾ナバ
即チ其ノ全數ヲ上納スヘシ

第二十一款

一監督官ハ銀位見本ヲ設ケ置キ此局ハ監督官ニ代リテ日本國ヨリ納ムベキ稅銀ヲ受取ル可シ右銀號局ヨリ渡セシ受取書付ハ即チ監督官ヨリ渡セシ者ト同樣ニ心得ベシ上納スル銀ハ紋銀ニテモ銀圓ニテモ監督官ト領事官ト共ニ市中相庭ヲ校シ銀圓ヲ紋銀ニ比較シ銀位歩割ニ應シ其高ヲ照シテ補足ス

第二十二款

一日本國ノ商船ヨリ納ムヘキ鈔課ハ各々船牌ニ載セタル噸數ニ應ノ納ム百五十噸以上ハ噸毎ニ鈔銀四錢ヲ納メ百五十噸正及ヒ百五十噸以下ハ噸毎ニ鈔銀一錢ヲ納ム既ニ鈔ヲ納メシ後ハ監督官ヨリ執照(テガタ)ヲ渡シ船鈔ヲ收納セシ旨ヲ認メ

置ク也若シ其船別ロヘ駛往カハ即チ入
ロノ時ニ於テ照ヲ差出シテ改ヲ請ケ遂
ニ第二十款ヲ照シテ執照ヲ領セシ日ヨ
リ始メ四個月満ツ迫ハ更ニ船鈔ヲ納ム
ニ及ハズ以テ重複ヲ免クベシ日本國ノ
屬民各港ニ在テ艇隻ヲ用ヒ客人ノ行李
書狀食物及ヒ定式不納稅之物ヲ運漕ス
ルニハ鈔ヲ納ムニ及ハズ若其小船ニ納

稅スベキ貨物ヲモ一同載セ運ハヾ即チ
一百五十噸以下之例ヲ照シテ噸毎ニ鈔
一錢ヲ納ムヘシ

第二十三款

一日本國ノ貨物ヲ通高ノ諸港ハ何地ノ差
別無ク其港ニ在テ既ニ定例ノ通リ稅ヲ
納メテ若シ内地ニ轉高セント欲スル者
諸關所通行ノ節ハ只今般定メタル通高

則例ノ通リ稅ヲ納ムノミニノ加增有ル
ヿヲ得ズ凡ソ内地ニ在テ貨ヲ買ヒ港ニ
運ヒ赴ント欲シ或ハ港ニ在テ洋貨ヲ有
シ内地ニ進售(ウル)セント欲スニ若シ一度ニ
稅ヲ納メ諸所小番所ノ征收(トリタガル)紛繁ナルヲ
免ント願ハヾ各國通商ノ稅則ヲ査照(キアハセ)メ
辨理スヘシ若シ其海關書役人等例款ヲ
不守規費ヲ詐リ取リ或ハ多ク稅餉ヲ取
立ル者ハ清國ノ例ヲ照シテ究治ス

第二十四款

一凡ソ日本國ノ船主通商ノ諸港ニ入船メ
貨物ヲ其港ニ在テ只幾分ダケ卸サハ即
チ卸ロセシ高ヲ照シテ稅ヲ納メ其餘ノ
貨物ヲ別港ニ帶(モテ)往テ卸シ賣ント欲ス者
ハ其稅銀モ亦別港ニ在テ上納ス

第二十五款

一日本國ノ商人通商ノ一港ニ在テ既ニ入
口ノ貨物ヲ納税畢テ後更ニ別港ヘ載セ
往キ售賣セント欲ル者ハ即チ監督官ニ
報明シ其貨ヲ驗明シ果シテ原封不動ニ
係ラハ通商ノ別港ニ載セ往ク時監督官
ヨリ牌照ヲ給與シ其貨ハ曾テ某ノ港ニ
在テ既ニ税ヲ収納スト註明スレハ此港
ノ監督官ハ牌照ヲ驗過シ即チ卸貨ヲ准

外務省

ルシ餉税ヲ取立ズ一切ノ規費倶無シ惟
密商ヲ巧ミ謀ルノ情弊有ルヲ虞出セハ
其貨ヲ嚴シク拏テ没収ス若シ貨物ヲ外
國ニ運出セント欲セハ海關ノ監督官ヨ
リ存票一紙ヲ渡シ貨ヲ運ヒ出港スル商
人ヨリ既ニ税課何程ヲ過納セシ旨ヲ言
明シ他日税ヲ納ムヘキ貨物有ルトキ入口
出口ヲ不論何レニモ票ヲ持テ既ニ税餉

ヲ納メタルノ證據ト為シ其高ヲ差引テ
勘定ス可シ

第二十六款

一凡ソ貨物ヲ別船ヘ剝ス(ツミカヘ)ニハ若シ監督官
ヨリノ免許狀無レハ貨物ヲ自ラ剝運ス
ルヿヲ得ズ若シ違ハヾ意外ノ危險ニヨ
リ手數スル間合無之外其私ニ剝セシ貨
物ハ全ク取上ケ没收スベシ

第二十七款

一凡ソ通商諸港ノ海關監督官ハ必ス京都
ヨリ渡リタル秤碼(カリモノサシ)大尺等一揃ヲ領事官
役所ニ送リ與ヘテ存留セシムヘシ其輕
重長短ハ廣東ノ海關ニ在ル物ト異ルヿ
無シ其鈔稅等ノ諸銀ヲ清國ニ上納スル
ヰハ皆此秤碼ヲ用ヒ算當ノ揭渡ス若シ
貨物ヲ秤大(カリサス)スル ニ爭執スルヿ有ラハ即

外務省

チ此式ヲ以テ準ト為ス

第二十八款

一凡ソ商人ハ條約並ニ後附ノ通商稅則ニ違背シ銀ヲ罰シ貨物ヲ抄シ官ニ没收スル之義出来セバ是ハ清國官ノ收辦ニ歸スヘシ

第二十九款

一日本國ノ官船別ニ他意無ク或ハ盜ヲ捕フニ因テ清國ニ駛入ルニハ何レノ港ヲ論スル無ク一切食物甜水ヲ買取リ船隻ヲ修理スヘシ地方官懇ロニ照料ヲ為シ船上ノ水師各官ハ清國ノ官員ト必ス平行ニ相待スヘシ

第三十款

一日本國ノ商船破壞或ハ其他ノ難儀筋有テ急ニ港内ヘ邂逅スヘキ者ハ何レノ港

外務省

ヲ論スル無ク皆進ミ去テ船舶ヲ完納ス
ルニ及ハサル可シ船内ノ貨物ヲ若シ船
ヲ修理スル為メニ陸上ケスヘキ者モ亦
税ヲ納ソ其貨物ヲ監督官ニ留置
テ照顧シ密商ノ情弊ヲ防クヘシ若シ其
船清國近岸ノ地方ニ在テ損壊或ハ浅瀬
ニ乗上ケ難儀ニテ入港セシ丁ノ地方官
聞知ラハ即刻法ヲ設ケ深切ニ高艄ヲ拯

救シ船隻ヲ保存シ並ニ貨物ヲ水中ヨリ
打捞損壊ニ至ラサル様ニスヘシ救ヒタ
ル水手人等ヲ必ス懇ロニ照料致シ法ヲ
設ケ就近ノ領事官ヘ護送ノ査収セシメ
以テ隙誼ヲ船ニスルヲ要ス

第三十一款

一凡ソ日本國ノ船隻清國ノ洋面ニ在テ洋
盜ニ打刦セ被レ地方官其報知ヲ聞カハ

外務省

即刻法ヲ設ケ査(シラベ)シ例ヲ照シテ罪ヲ治
メ刻(オヒヤカ)シタル贓物(シナモノ)ハ何処ニ在テ捜獲(サガシエ)シ並
ニ如何様ニ相成居ルヒ何レモ領事官ニ
徼送(ワタシ)リ事主(モトノヌシ)ニ搏給(サシカヘ)メ収領セシムヘシ若
シ承緝之官(トラヘカタヌルヤクニン)其盜ヲ獲(トラヘ)ル丁能ハ不ルカ或
ハ贓物(ヌスミタルモノ)ヲ全ク起(トリカヘス)シ得ンハ清國ノ例ヲ
照シテ處分(イマシシ)スヘシ尤贓物(ウセモノ)ハ官ヨリ決メ
賠償(ツクノヒ)セヌルナリ

第三十二款

一凡ソ日本國ノ官船商船ノ水手人等逃亡
セシヲ領事官或ハ船主ヨリ其次第ヲ報
明セハ地方官ヨリ屹度實力ヲ以テ查拏(シラベトラヘ)
メ領事官及ヒ船主ニ解送(ヤキ)シ収領セシム
ベシ若シ清國ノ役人ナド罪ヲ負ヒ日本
國人ノ寓所或ハ商船ニ逃入リ隱匿(カクシカクフ)スル
有テ地方官ヨリ其次第ヲ掣合越サバ領

事官即刻法ヲ設ケ捕押ヘテ清國ノ官ヘ
送リ収領セシムベシ

第三十三款

一日本國ノ民人地方官ニ赴キ訴出ツベキ
ヿ有ル毎ニ其禀函ヲ先ツ領事官ヘ投遞
スベシ其事柄適理至當ナルヲ察核セシ
上ニテ其者ニ代リテ地方官ヘ轉遞スナ
リ其理至當ナラ不レハ發還更正セシム

清國ノ人領事官ニ禀シ赴クヿ有ルモ亦
先ツ地方官ヘ投遞ノ一體ニ辨理スベシ

第三十四款

一日本國ノ民人清國人ノヿニ付テ控告ル
義有ラハ先ツ領事官ノ役署ニ赴キ禀ヲ
投シ其難澁筋ヲ申立ナバ領事官ヨリ情
由ヲ査明セシ上ニテ力ヲ竭シ成ルダケ
訴訟セザル様ニ勸息スヘシ清國ノ人日

本人ヨリ難澁ヲ受ケ領事官ニ訴ント欲
スル者有ラハ領事官モ亦前段同様ニ勸
息スベシ其中ニ勸息スヒ聞入レ不ル者
有ラハ清國官ヘ掛合付ケ領事官モ立合
一同吟味ヲ遂ケ公平ニ裁斷スナリ

第三十五款

一日本國ノ民人ハ清國ノ官憲ヨリ必ス時々
保護ヲ加ヘ其身家ヲシテ安全ナラシメ

若シ欺凌擾害及ヒ不法ノ匪徒(ワルモノ)火ヲ放チ
房屋ヲ燒キ或ハ劫掠スル者有ルニ逢ハヾ
地方官ヨリ即刻法ヲ設ケ兵役ヲ繰リ出
シテ彈壓(トリヲサヘ)查追(シラベトリ)シ並ニ火付ケ盜賊セシ惡
徒ヲ定法ノ通嚴(ヒシ)ク辨方(ハカラヒ)致スヘシ

第三十六款

一清國ノ人日本國屬民ヨリ欠項(シヤクヂ)ヲ負フテ
償ヒ還サヌル カ或ハ潛カニ逃レ避ケタ

ル者有テ清國ノ官ヘ債主ノ呈詞ヲ收到シタラハ屹度真味ニ計ヒ欠主ヲ說篤ノ賠償セ逃犯ヲ嚴シク拿取リ立テ債主ニ繳スヘシ日本國ノ民人清國人之債ヲ引欠ケテ還サヽルカ或ハ潛ニ逃避シタル者有ラハ日本國ノ官員モ亦前段同樣ニ辨理スヘシ尤双方何レニメモ兩國ノ官員ニ向テ償ヒ方等願フ可カラザルナリ

第三十七款

一清國ノ人日本國ノ民人ヲ欺凌擾害セシ事件有テ法度ヲ犯セシ者ハ清國ノ官由リ嚴シク拿テ清國ノ例ヲ照シ罪ヲ治ム日本國ノ民人清國ノ人ヲ欺凌擾害セシ事件有テ法度ヲ犯セシ者ハ本國領事官由リ嚴拿ノ本國之例ヲ照シ罪ヲ治メ以テ允當ヲ昭ニス

第三十八款

一凡ソ日本國ノ屬民ニ付タル人口或ハ家産ニ干係セシ事件ハ皆本國官員ノ査辨ニ歸ス若シ本國ノ屬民外國ノ屬民ト争執スル情事有ル時清國官ヨリ之ヲ取調クニ及ハサルナリ

第三十九款

一日本國ノ民人通商ノ各口ニ居住シ欺詐ヲ行ヒ利ヲ謀ルニ因リ清國ノ人ヲ串結シ本國ノ法度ヲ犯ス者有テ本國ノ官由リ訪拏シ或ハ地方官ヨリ察出シタラハ何レモ立ロニ緝捕ヘ両國ノ官會メ其情ヲ審シ分別ノ罪ヲ治ムヘシ

第四十款

一両國ノ民人双方ノ諸港ニ来住スレハ絶テ其本國ノ官在駐管轄ス無シハ地方官

外務省

ヨリ何レモ己ノ民ト視為シ取締メ世話
ス可シ若シ犯罪ノ者有ラハ其地方ノ律
例ニ依テ罪ヲ治メ其本國ノ官ヨリ過問
フニ及ハザルナリ尤諸港ノ内只一個港
ニテモ領事官ノ役署ヲ設ケ有ラハ地方
官ヨリ其罪人ヲ解送リ領事官ニ交シテ
懲辨セシムベシ

第四十一款

一両國諸開港場ニ領事官ノ役署ヲ設ケ置
キ本國民人ニ關係セシ事件ヲ辨理スト
雖ドモ其取締方等貫徹全備ニ至ルヲ信徹
スル迄ハ其地方官モ亦協同助辨照料メ
鄰誼ヲ昭カニスヘシ

第四十二款

一両國今般議定セシハ
大清國

皇帝今後其恩澤利益ヲ別國ニ施サルヿ
有ラハ日本國モ一同事々其實惠ヲ受ケ
不ルヿ無シ日後若シ稅則關口稅噸稅過
關稅出入口ノ貨稅ナドヲ何方ノ國ヶニ
テモ變革施行セラルヽヿ有テ一旦通行
ニ及ハヽ日本國ノ高民船主等モ亦一同
遵照シ行ヒ其為メ再ヒ條約ヲ改議スル
ニ及ハサルヘシ

第四十三款

一日後日本國ニ於テ若シ今般議定セシ章
程條約内ノ廉ヲ變通セント欲スル處有
ラハ此章程ヲ互ニ執リ換ハセシ日ヨリ
始メ十個年ニ至リ滿ル迄ヲ限ト為シ其
期限ヨリ六個月前ニ公文ヲ差シ立テ清
國ヘ如何樣ニ酌量メ替ヘ改メタキ旨ヲ
掛合ヒ越サハ夫レヨリ再應ノ評議ヲ行

フ可シ若シ右ノ期限以前ニ曾テ聲明セ
スハ此章程ハ仍今般議定シタル通リニ
取行ヒ又十年立テ後ニ再應ノ更改ヲ行
フヘシ

第四十四款

一今度議定セシ條約并ニ諸章程ニ兩國ノ
御筆批准ヲ一個年ノ内ニ伺ヒ定メ双方ノ
欽派大臣大清國ノ京師ニ會シ互ニ執リ

換ハシ盟府ニ載置キ共ニ億年ニ延ルヘ
シ此レカ為メ兩國ノ
欽差大臣先ニ施押ヲ畫キ關防ヲ鈐蓋シ
以テ信守ヲ昭ニス
大日本國
欽差大臣
大清國
欽差大臣

外務省

明治四年辛未月日

同治十年辛未月日

外務省